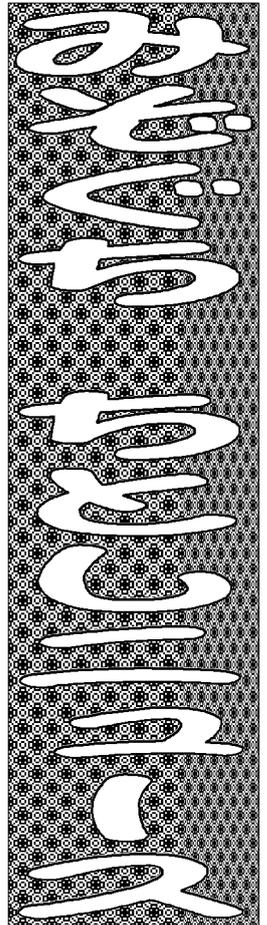


# 環境か開発か 審議は継続へ



天ヶ瀬塚田への牛糞堆肥もどぎせの  
投棄による水質汚染及び  
生活環境被害に関する請願



2010年12月37号  
市政、活動報告  
日田市京町82-2



衆議院調査局環境調査室による現地調査の様子

「水郷日田の水を守る会」から出された請願  
について経済環境委員会で審議したが、判断  
するための資料が市側と委員会でもちまちま  
あることや、県の最終的な検査結果が出てい  
ないことで継続審議となった。この問題は市  
を二分する形で進んでいると懸念している。

この請願の経過は、  
～ 昨年の5月に天ヶ瀬の

地に多量の牛糞堆肥が  
投入されそれが近隣の  
河川や地下水の汚染を  
進める不安があり、牛  
糞堆肥の搬入の中止、

「五馬市地区  
環境対策協議  
会」から平成  
12年頃から、  
塚田台地の本  
川牧場の所有

## 事業の趣旨

高齢化、過疎化で耕作放棄地や  
山林の荒廃が進んでいる中山間地  
の遊休地の有効活用が緊急の課題  
になっている。その解消のため土  
地利用体系を再編整備して、「日  
本型放牧技術」による畜産的利用  
の拡大と自給飼料の効率的な確保  
のため、草地基盤と収穫体系の一  
体的な整備を推進するもの。

当該地域の草地林地一体的利用  
総合西部事業塚田団地の当初計画  
の事業費は、14億4千万円が見  
直し計画では、8億7千万円とな  
っている。

## 草地林地一体的利用総合整備事業

日田は「環境日本一」  
を目指しています。ま  
た一方では堆肥等を利  
用した循環型農業を推  
進していること、加え  
て五馬台地の活用も必  
要との意見も多く、再  
度検査結果や出された  
資料を検討し答えを模  
索したいと考えていま  
す。

これら陳情書や調  
査室に対する市や県の  
回答では、筑後川水系  
の河川水や地下水の汚

染の事実はないこと、  
塚田団地の土壌につい  
ても現状では問題とな  
る数値ではないとして  
一貫して環境に影響を  
与えているとはいえな  
いものとなっています。  
しかしながら、付近  
住民や多くの団体が環  
境に与える影響を不安  
視していること等から  
行政の対応についても不  
信感を抱いているのも  
事実です。

この問題は昨年の8  
月国会でも取上げられ、  
衆議院の調査局環境調  
査室が現地にも調査に  
入りました。

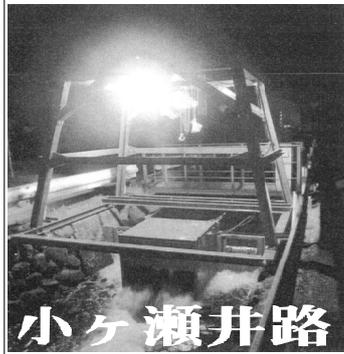
また行政は、問題の  
発端である「草地林地  
一体的利用総合整備事  
業」の実施は、住民の  
理解が得られ課題が解  
決するまで事業を実施  
しないと回答しており、  
検討する時間はあると  
考えています。

「雪で人も出も少ない  
だろう」と思っていました  
が大原神社の登り口や境内  
は多くの若者の声が満ち  
ていたので少し驚いたとい  
うより感激しました。そ  
ういえば一昨年までは、  
青年団と一緒に大晦日は  
交通安全の餅付きをやっ  
ていたのだが、昨年細々  
だが続いていた青年団も  
解散し、その恒例の行事  
も無くなったと正月早々  
淋しい気持ちにとらわれ、  
色々なイベントで必ず協  
力をしてもらっていただけ  
に残念でなりません。これ  
も人と人との繋がりが無  
くなり絆を築けないと言わ  
れる社会の表象なのだろ  
うか。だとすれば、これも  
政治が解決しなければな  
らない大きな課題の一つ  
と青年団の解散を思い気  
持を新たにしたい。

## フラスワン

今冬は大変寒  
く雪の多い毎日  
です。そんな中、  
毎年行っている元  
旦夜中の初詣に、  
例年になく多い  
雪に足を取られ  
ながら今年も出  
掛けました。

# 小水力発電 2ヶ所で実証実験中



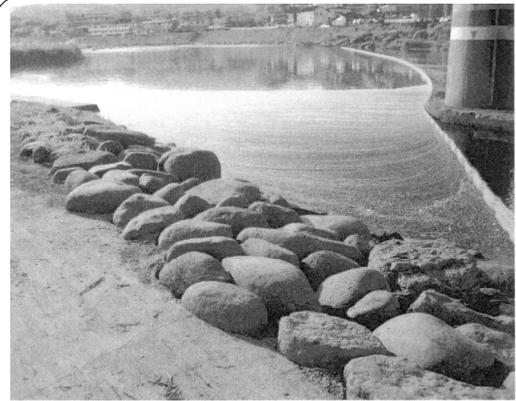
小ヶ瀬井路

地域にある自然でクリーンエネルギーに活用できる資源の調査と活用のための実証実験が流水式発電機（1.0KWタイプ）を設置し行われています。設置場所は小淵児童公園横の小ヶ瀬井路と本町第一公園の東屋の下流部です。予算は2ヶ所合計で1千3

20万円です。実験段階での発電量は150〜400Wとそこそこあり、落差が少ない身近な水路を利用でき公共施設の照明等には十分であり、何よりもクリーンで環境にやさしいものであることから、実験結果を踏まえ、今後設置可能などところにか順次設置していくこととなります。



本町第一公園東屋下流

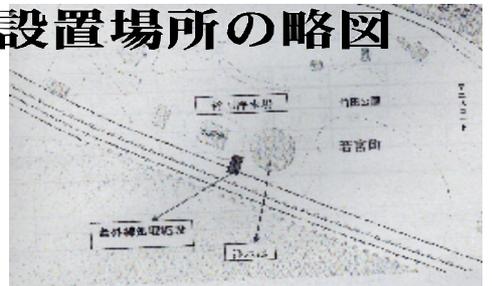


## 三隈川のよごれ 泡対策実施中

以前から散歩中に大変気になっていた、三隈川に浮いていた油のような泡。それを除去し、原因を調査するために三隈大橋の上流に昨年11月から今年の3月25日までの間、橙色のオイルフェンス（写真の右側）が張られます。今までの調査では、この油のような泡の成分は、「多糖類」や小動物の死骸とのことですが、1月と3月にもさらに水質調査を行い原因をさらに突き止めるようになっています。

## より安心、安全な水道水のため 紫外線処理装置の設置

### 設置場所の略図



田公園の浄水池内に設置されることになりました。予算額は、約8千800万円と高額で、しかも日田市では今までに、このクリプトスポリジウムは発見されていないとのことですが、安心な水道水のためには、必要な措置であると考えています。

## 消防職員 120名に増員

近年異常気象による大きな災害の発生、年々増加する救急自動車の出動回数等に対応するため今回消防署職員定数を106名から120名に改正する議案が「平成22年度第2回日田玖珠広域消防組合議会定例会」で提出され、可決されました。

この消防職員の定数のついては、前市長のとき減員が検討され、大きな話題となり郡部を中心とした地域で反対運動も起きていました。私たちは一貫して「減員には反対」で、「消防力の整備指針」に基づいた適正な職員の確保を主張してきました。今回定例会で増員が確定し、私たちの要求が実現したことを大変嬉しく思っています。

なにはともあれ、これで市民の生命財産の安全、安心がさらに守られるものと確信しています。

先年、クリプトスポリジウムにより、埼玉県下で8千人が下痢症状を訴えたことで平成19年度に厚労省からこれを不活化させる紫外線処理装置の設置が指示され、今回竹

**クリプトスポリジウム**  
人を含む脊椎動物の消化管などに寄生する原虫で、浄水場などの塩素消毒に対し強い耐性を持っている。対策としては高濃度の塩素で長時間処理することや紫外線処理で不活化できる。

現在では「日田梨」ドを確立していますが、これまで相当の苦労があったと考えます。2月2日にマリエールオークパインで記念事業が開催され一般入場も出ますので、ぜひ覗いてその歴史や栽培技術に直に触れては如何ですか。

## ひた梨栽培 今年で100周年 2月に記念事業

日田市夜明閑地区で梨が最初に植え付けられてから今年で100年になります。

# 林業活性化で視察

## 村ぐるみで

### FSC認証取得の諸塚村へ

# 林業技術の継承は最も緊急な課題

日田市の8割以上は、森林原野です。かつてはこの自然山林を活用し、製材業、林業を中心にして繁栄をして来ました。しかし、現在は原木価格の低迷や後継者不在によりこの産業を守りぬくことが非常に危機的な状況になっています。

日田市の8割以上は、森林原野です。かつてはこの自然山林を活用し、製材業、林業を中心にして繁栄をして来ました。しかし、現在は原木価格の低迷や後継者不在によりこの産業を守りぬくことが非常に危機的な状況になっています。

活発な村づくりや地域おこしをしている所で気づかされるのは特異なリーダーが存在することです。ここに、耳川広域森林組合や村役場にそのリーダーがいました。

その方々が口を揃えて言っていたのは、「このままでは村そのものが存在しなくなる。」「林業を現状のまま放置していたら、森林を守り育てる技術が継承されず、日本の林業が崩壊する」という強い危機感で、色々な取組みを始めたと言うことでした。少なくとも私もそう考えています。

今この村では、「諸塚村の杉、檜を使った産直住宅の建設」や「林業の技術を継承し



**FSC認証 (森林管理協議会)**  
(Forest Stewardship Council)  
森林の健全さ、正しい管理形態、森で働く人々の暮らしの保全などを世界的な基準で客観的に審査し、適正な管理を実施している森林を認証し、そこから生産される林産材に認証マークを付け、都市の方がそれを使うことで都市と山林が協力し合っって森林を守り、地球環境を保全することを目的とするものです。  
本部はドイツにあります。

林業で働く人を育成しながら雇用を作り出す「ウッドピア」また「針葉樹と広葉樹を適切な割合で植林する百彩の森作り」等の林業を活かした取組みを多く繰

り広げています。これを日田市の林業にそのまま模倣することは不可能と考えていますが、しかし林業が中心の地域としての「危機感」を共有すれば、その基本的な考え方などは十分に取入れるべきだと考えます。国も2020年まで国産材の自給率を50%に木材加工や森林観光を含め雇用を百万人にするなどの発言もあります。

これらを考えるとき、今日田の林業再生について真剣に論議し、実行する時期にきていると強く感じています。

# 世界遺産登録に若干の心配が

日田市は栃木県足利市の足利学校や岡山県備前市の閑谷学校などと連携し、咸宜園を含む4つの教育資産を「近世日本の学問・教育遺産群」として世界遺産登録をめざしています。

その一つである「閑谷学校」を訪問し、話を伺った時この四つの施設が同じ歩調で登録を目指しているとは思えない部分があり、市の担当者に問いました。疑問は、市が、



国の特別史跡閑谷学校

で進めていると明確に答弁しましたが、私個人的にはまだ、疑問があります。

# 基本的構想は賛成 町づくりの進め方に意見あり

日田市は、屋形船を各旅館だけではなく「第三者」による運営を行い、これを「町づくり」の基本にしようとの試みを進めています。この基本的な考え方には「賛成」の立場ですが、その進め方について多少疑問を抱いています。それは、そもそも町づくりや地域おこしはその中心となって推し進めるのは、その当該者あると考えます。例えば、日田のこのパターンでは、「三隈川」に接する旅館街の人や周辺の住民の方々が「何とかしなければ」という強い意志が発現し、

進められればその「本気」度で、真剣な論議が展開され方法が模索されると考えますが、現状は「市行政」の積極的な働き掛けにより進められているという観が歪めません。もう一度関係者と現状の問題は何なのか、今のままの方法でいいのか等の論議を進め地域の方の意見、意欲を引出すことから、始めたら如何かと思つてます。このままでは「行政が言ったから」となってしまうのではないかと、大変危惧をしています。

# 地産地消の建設地



## 何はかせいせいの、雇用促進を

昨年押し詰まったときに、本年6月にキヤノンの工場建設決定という嬉しいニュースが飛び込んできました。当初の計画より、従業員数が500名から350名に、投資額が400億から300億に変更になっていきますが、現在筑波や大分、杵築で働いている人やその身内の人にとっては、待ちに待った朗報だと

月には、地元を中心に新卒採用者12名。加えて来年以降50人規模で継続的に採用を予定しています。これは大きな経済効果をもたらすと考えていますし、活性化に導く大きな一歩と思われまます。残念ながら中途採用の予定は明確ではありませんが、

考えます。しかし何といつても一番喜ばしいのは、日田市内で新たな雇用ができることです。現在の「日田キヤノンマテリアル」の従業員数は179名ですが、本年4

シ株も本年4月の操業開始時に向け、現在18名の社員に加え、中途採用10名、高卒10名等合計40名の採用を予定しています。また、フル稼働時には、約80名の体制を予定するなど、企業進出の効果が雇用の面に表れつつあると受止めています。さらに、市では、縁故者を活用した企業

誘致活動を行って、その成果も期待していると伺っています。

## 海外市場に 目を向ける日田の産業界

日田木材協同組合は低迷する日本国内の木材需要の対策として、成長著しい中国にその販路の拡大を目指し「上海木材行業協会」との間で友好交流に関する協定を昨年11月12日に結びました。



上海龍口市場の日田梨の看板

このような動きは「木材関連」だけではなく、「日田梨」においても、上海で海外輸入果物が多く集まる「上海龍口果菜市场」に年間使用料約8万4千円の経

費を使い、看板を設置し宣伝効果を狙っています。またイタリアミラノのフォルソガリバルディー商店会に日田家具の出展等色々な機会を捉えて海外への販路を模索しています。

その予算等の執行について議論があったところですが、日田産品が新たな販路拡大していくことには異存はないが、執行部の議会への説明を丁寧に行う必要があると考えている。



イタリアミラノの展示場

選挙は将来の日田市の方向を決める大事なものです。本人も含めしっかりとやろうと考えています。

また、4月24日投票の市議選も、定数が28名から24名と4名の減になりますが、チラホラと新人の名前も聞こえ出し、日田市内全域にスピカーの音が響き渡ることになりそうです。

## 工場建設中の九州ジージー



## 佐藤陽一市長 早くも二期目出馬表明

12月定例会の一般質問の冒頭、佐藤陽一市長は飯田茂男議員の質問に対し「志の道半ばであり、さらに市民の負託を」として二期目の再選を表明し、

した。本年の夏に挙行されるのだが早々の出馬表明を行いました。このことに見られるように今年選挙の年です。4月10日投票の「県会議員選挙」には、定員3名に対し、既に5名が出馬を表明しています。現県議の3名に加えて現市議会議長の杉野義光氏と現市会議員の財津さやか氏が記者会見し出馬の意向を示している、大変な混戦が予想されています。

## 今年選挙の年なのだ